

はたらき人

沖縄信徒聖書学校
沖縄聖書神学校

沖縄県那覇市久米町
2の11 (〒900)
事務局
聖書学校
☎ 09893(7)8988
神学校
☎ 0988(84)4391

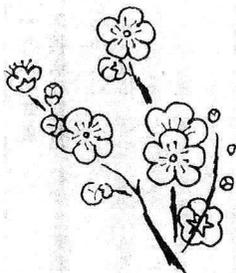
イエス・キリストの大宣教命令に
応えるためにその働きの大切な拠点
である教会の牧師、伝道師の存在が
必要はいままでもないことであるが、
しかし同時にこの使命を果すために
は、すべての信徒が伝道者となつて、
それぞれの立場においてその責任を
果たすことが忘れられてはならないと
思う。今、沖縄十万人救霊が目標と
してかけられているが、そのために
には、牧師と共に同じ信仰に立つす
ぐれた信徒伝道者が必要なのである。
初代教会の歩みをかえりみると、
そこにはペテロやパウロ等の弟子た
ちと共に多くの信徒が教会の重要な
責任を負い、これを守り支えるのみ
でなく、積極的に外に向つて伝道し、
良い成果をあげたことが記されてい
る。宗教改革者たちも「万人祭司」
を叫んだ。これを「すべての信徒は
伝道者である」といいかえてもよい
と思う。

信徒伝道者に求められる第一のこ
とは献身であるが、その献身とは次
のことを意味している。

①イエス・キリストへの献身
②イエス・キリストの体である教
会への献身
③イエス・キリストのこの世界に
おける業への献身

主イエス・キリストは私たちの罪の
ために十字架にかかり死なれた。そ
こに神の全たき愛があらわされ、私
たちは罪を贖われて死とのろいの支
配から新しい生命へと救い出された
のである。イエス・キリストのこの
偉大な愛にふれるとき、私たちは感
謝が心に溢れて、キリストのために
仕えたいと願わずにはおられない。
そしてパウロと共に「私は十字架に
釘つけられたキリストを宣べ伝える」
(一コリ・23)と告白せずにはお
られないのである。

信徒伝道者に求められる第二の点
は、聖書をよく学び、理解すること
である。「聖書は、すべて神の靈感
を受けて書かれたものであって、人
を教え、戒め、正しくし、義に導く
のに有益である。それによって、神
の人が、あらゆる良いわざに對して



十分な準備ができて、完全にととの
えられた者になるのである」。ニテ
モテ3・16、17。聖書の学びは主イ
エスに対する私たちの奉仕の姿勢を
主観的・感覚的なものから、みこと
ばによる確かな土台によるものへと
変える。神中心の信仰、教会形成的
信仰の視点、それは正しい聖書の学
びからくると確信する。わが信徒聖
書学校の重要な使命の一つはこのこ
とにあるのである。

信徒伝道者に求められる第三の点
は、実践力と奉仕の持続性である。
個人伝道・教会学校・壮年会・婦人
会・青年会などの教会の奉仕の場
で、しばしば私たちが感じることが、自
分の力不足・経験不足、そしてそ
からくる奉仕の持続性の弱さである。
伝道や奉仕の力の根元は私たち自身
のうちにあるのではなく、聖霊なる神
の力によるのである。聖霊に満たさ
れることを真剣に謙虚に祈り求めよ
う。そして繰り返して修練を受ける
ことにより豊かな実践力を身につけ
たいのである。

信徒伝道者の必要

沖縄信徒聖書学校・神学校
理事長 斉藤清次

二十世紀のヨナ

神学校一年 藤村幸貴

「立って、あの大きな町ニネベに
行き、これに向つて叫べ。彼らの悪
がわたしの前に上つて来たからだ」。
しかしヨナは、主の御顔を避けてタ
ルシシュへのがれようとし、立って
ヨッパに下つた。彼はタルシシュ行
きの船を見つけ、船賃を払ってそれ
に乗り、主の御顔を避けて、みなと
いっしょにタルシシュへ行くことと
した。(ヨナ書一の二、三)

五八才で神学校入学、今一年生と
して学んでいます。知人、友人は、
この年になって四ヶ年の学びは無理
ではないか、やめたほうがいいんじ
やないか、といういろいろ助言してく
れました。友人たちは、私の事を思っ
て心から心配してくれたのです。し
かしまた励ます友も得ました。

クリスマスチャン生活二六年になりま
すが、今から十三年前、聖書学校を
卒業した時から神学校へ進学すべ
きではないか、と実は心の中に格闘が
続いていたのです。

ヨナ書の中に自分の姿を見つけた
時、これまでの十余年の間、私は主
が示された方向へは行かず反対の方
向を求めて歩んでいた事がわかった
のです。「主は、ヨナにニネベへ行

くようにと言われたのに、ヨナは、
自分の都合を優先して、タルシシュ
へのがれようとして、しかも船賃ま
で払ったのです。そしてヨナは、タ
ルシシュへ行くはずでしたが、彼
の計画は見事に失敗したのです」。
神のみことばへの不従順が原因のよ
うです。

ヨナの格闘は、私の中にもありま
した。神学校へ行きたいと心では思
いながら、自分の都合を優先させて、
十年余の歳月格闘が続いたのです。
不従順の罪をこれ以上続けることは
できませんでした。ヨナのように海
に投げ込まれ、大きな魚に吞まれて
いやいやで主に従うような事になら
ないように、悔い改めて神学校へ入
学しました。感謝です。毎日が学び
のために奮闘しています。

七月の夏休みの中に特別教科とし
て十日間の断食がありました。一日
コップ三杯の水で、十日間のはげし
い闘いも経験させられました。苦し
い事もあり恵みも受けました。主か
らの訓練は、山あり谷ありで、高く
低くリズム的です。そのリズムが今
の私には必要なのです。神の訓練に
は年令は関係ないのです。

最後に、モーセが八〇才までミデ
ヤンの地で神の訓練を受けていた事
を思いながら、感想と証しを終りま
す。この老学生のためにお祈りを
願います。アーメン。

一九八六年度 第十三回定期総会報告

一九八六年十一月十七日午後七時
半より、沖縄福音会館において、聖
書学校神学校の定期総会が開かれま
した。参加教会、二三中、一九教会
から代議員が送られた。開会礼拝後
ただちに議長、書記の選出がなされ
議長に斉藤清次師を選出し、聖書学
校、神学校の諸報告がなされた。続
いて一九八七年度の学事計画、予算
等について熱心な討議がなされた。
神学校では「未だ見ぬものを望みつ
つ」のみ言の通りに新入生二人を迎
えるとの信仰をもつての計画でした。

一九八七年度の予算は
聖書学校二、五〇七、九二一円
神学校 一、二一〇、〇〇〇円
が計上され、両学校の推進がなされ
ることになりました。

主が命じたもう宣教、そして主が
委託された働き人の養成は、各教会
の祈りと協力によってなされること
と強くアピールされました。

お知らせ

◆第十二回沖縄信徒聖書学校卒業式
日時 三月二二日(日)午後三時
場所 沖縄福音会館

◆八七年度沖縄信徒聖書学校入学式
日時 四月三日(金)午後七時半
場所 沖縄福音会館

編集後記

▲あちらこちら
らの庭先きに

桜が紅く咲きほこって、つい足
をとめて眺めるのですが、何とも心
が和みます。私たちキリスト者もこ
の花のように鮮やかに咲きたいもの
です。

▲キリスト者の使命、教会の使命の
一つは、福音の宣教です。このこと
が推進されていくためには、誤った
教えに揺ぐことなく、反対者にも弁
証できる働き人が必要です。すべて
のキリスト者がそうあらねばと思
います。そのために聖書学校、神学校
が用いられるよう祈ります。

△遅れましたが第十三号をお手も
とにお届けいたします。原稿も寄せ
くださった皆さんにお礼申し上げます。

一九八七年度

沖縄聖書神学校生徒募集

1. 受験資格
大学卒または同等の学力
を有するもの
2. 願書〆切 三月十日
3. 試験日 三月二十三日、
二十四日
午前九時～十時
4. 申し込み
那覇市首里山川の一七七
電話 八四一四三九一

完成をめざして

聖書学校一年
金城 宏

「あなたは真理の言葉を正しく教え恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めなさい」

第二テモテ二・十五

一九八六年度、沖縄信徒聖書学校の入学式で、私達新入生に与えられた言葉を感じたいと思います。

ハレルヤ、私は四十七歳の教員でありましたが、神様に救われて五年、教会では伝道部で小さな奉仕をさせていただいております。このような愚かな者が、今春より聖書学校で学ぶことが許され、しかも、このすばらしい時に学ぶ喜びをお証しする機会を与えられ感謝であります。

私は自分の教会での二ヶ年間のベテラ聖書研究会への参加を通して聖書学校で学ぶチャンスにあたらされました。兄弟姉妹との学びの中で聖書学校のこと話になることがありましたし、またこの聖研が益々自分の弱さを感じさせ、教理的にも実践的にも訓練される必要性を強めてまいりました。タイミング良く、聖書学校の入学案内を手に入れることができました。しかし、毎週火曜日と

金曜日の二晩の学びの時間が二ヶ年間も確保出来るか、私のような者が入学を許されるだろうか、年齢も気になり出してきました。しかし、牧師先生に相談することですと応募する決心ができました。

対策もないままに入学試験を数日後に控不安そうなのを見かねて、「聖書学校は知りすぎた人は合格させませんから、点数を余り気にする必要はありませんよ」と、私は牧師先生に変な励まし方をされて、苦笑しながら受験に臨んだものでした。合否を待つ9日間、不安が募るばかりでしたがやがと合格通知を手にすることが出来た時は、インマヌエルアーメン！と感激と喜びで一杯でした。天国の法則はこの世の法則と逆転していること、また神様の恵みは人間の思いを遙かに超えるものであることを示され、家族共々に心からの喜びと感謝を捧げました。

聖書学校で学ぶ兄弟姉妹は、それぞれ年齢や信仰歴、職業や地位、教派や教会等において多種多様でありますが、自分の弱さと訓練の必要性を痛感し、また主のために全き献身をしようとする者達であることで共通しております。弱さの故に主の恵みに与かり、更に選ばれて、つきぬ恵みの時を与えられておりますことを感謝いたします。聖書学校には多くの敬愛する先生方や兄弟姉妹との

沖縄神学校聖書学校での奉仕を終えて

桃原 俊 幸

ハレルヤ、主の御名を崇めます。沖縄の神学校、聖書学校につながる牧師および信徒の皆様、沖縄滞在中はなにかとお世話になり、ありがとうございました。

昨年は目まぐるしく、十分なごいさつもできず、申し訳ありません。主の導きにより、東京の花小井キリスト教会へ着任してからは、すべてが順調に守られ、平安のうち、教会での働きと交わりを与えられております。これまでの皆様の背後にあるお祈りとお心づかいをほんとに感謝しております。

さて、沖縄の神学校、聖書学校での思い出について書いて欲しいというのですが、神学校については、第一期卒業生の坂美雄牧師、桃原俊政牧師との授業での交わりがなつかしく思い出されます。

ギリシャ語の学びは、他の科目と比べて無味乾燥になりやすく、いろいろ工夫が要求されるのですが、二人共、よく頑張りました。ギリシャ語のテキストは、メイチェン著「新約聖書ギリシャ語原典入門」を使用しましたが、第三十三課まであるので、さぞかし、ご苦労も多かったと思います。第15課ぐらまでは、

すばらしい出会いと交わりがありました。また学ぶ喜びと熱意に満ちています。感謝すべきは、主にあって第一に時間が聖別され、健康が支えられていること、第二に多くの方々の祈りと励ましに支えられていること、第三に錬達した働き人、仕える僕となることが約束され、たえず新鮮なビジョンが与えられることです。

ハレルヤ！「わたしを強くしてください。方によって、何事でもする事ができる」(ピリピ四・十三)願わくば、多くの兄弟姉妹が、教会役員の方々が、またリーダーを志す者達がこのチャンスに挑戦し、共に学びの座に連なると、沖縄信徒聖書学校がいよいよ主のみ栄えを現わすことが出来ますようにお祈り致します。また、遠方のために聖書学校での学びのチャンスに与れない兄弟姉妹のためにもお祈り致します。

私は聖書学校におけるみ言葉の学びと訓練によって、いよいよ心砕かれて、主に喜ばれる錬達した働き人に変えられたいと思います。また、「完成をめざして進む」(ヘブル六・一)喜びを伝えていく小さな証人であることの自覚をも強めて行きたいと思っております。



スムーズに行ったようですが、第20課ぐらになると、息切れや動悸が激しく、まるで病人のように元気がなくなってしまうのです。その後はただ授業に出ているだけで、という有様でした。(ごめんなさい。本当のこと言ってます)なにしろ、各課毎に文法があり、単語も覚えなければならず、練習問題が次々と襲ってくるので、頭の中は、オーバーヒートして、早くこの学びから逃れたい一心だったことでしょう。

教える側も何とかわかりやすく、というところで苦心するのですが、代わってやることもできず、ただ主のあわれみを祈るのみでした。でも、この訓練(?)を乗り越えないと、牧師になるための訓練にはならないように思われます。今学期は、藤村牧師、末吉兄が神学校で学んでおられますが、社会的にも活躍しておられ、教会の指導者としてもりもり動いておられる方々です。ギリシャ語に関しては、年令的なハンディ(?)と闘いながら、じっくりと取り組んでおられます。私も以前のケースがあるので、少々、思やりがでてきて、スロウ、ペースで授業を進めてまいりましたが、いかがでしょうか。途中で

一九八七年度
沖縄信徒聖書学校学生募集
△募集人員 二〇人
△入学資格 新生の明確な自覚をもち、受洗後一年以上上忠実な教会生活を送っている者。

△修養年限 二年(毎週火曜日、金曜日午後七時三〇分～九時)
△願書〆切 三月八日
△入学試験 三月九日(月) 午後七時
△科目 聖書・一般常識・小論文及び面接
△申し込み 沖縄市宮里二七七 新垣栄市
電話 七一九八八

将来信徒伝道者として、キリストと教会に仕えたいと願う者は、ぜひ本校に入学してください。



桃原俊幸先生ご一家

東京へ転任することになり、心残りがするのですが、後任の先生がきっと、良い指導をして下さるものと信じます。どうぞ、よろしくお願い致します。ギリシャ語の学びは、まさに、ヘブル人への手紙12章11節のみ言葉にあるように、「すべての訓練は、当座は喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われ、しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」と書いてあるとおりです。神学校入学を希望される方はどうぞ、これを読んで腰砕けにならず、むしろ奮奮して、ねじりはちまきで挑戦して下さいようお勧め致します。

さて、聖書学校ですが、私は、はからずも、一学期間だけ、新約概論の授業を担当することになりました。これが最初で最後の授業になるとは、思ってもありませんでしたが、私自身、自己啓発の上で、大変良い学びになったように思います。学生達がほとんど、まじめな方々で、熱心に耳を傾けて下さったので、講義する側も力が入り、大いに励まされました。特に、パウロの信仰、伝道活動については、自分自身も語りながら、不思議に内側から燃えてくるものを感じました。テキストは、土井清著、「現代新約聖書入門」を使用しましたが、ほぼ重要どころだけを引用

しました。副読本には、「注解、索引、チェーン式引照付」の新改訂聖書を使用しました。これは、新約各書のマタイから黙示録までの緒論を学ぶことにより、新約聖書の背景、著作年代、著者等を知るためです。ただ気になるのは、私がこの授業を担当する前から、「現代新約聖書入門」というテキストは既に決まっていたので、十分に検討する時間的余裕のないままに使用したことです。授業の中で、テキストをそのまま使用しないで、私個人の頭の中にあるものを語ったりしたので、とまどいを感じた方もおられたことでしょう。その点はどうぞご勘弁ください。

「新約概論を学んで」の感想文を提出させたところ、聖書に深い関心を持つようになったという方々が多かったのは、本当に感謝でした。どうか、聖書学校の学生の皆さん、これからも、じっくり聖書に取り組み、霊の目が開かれ、教会のリーダーとしても、主に用いられる器となつて下さるよう心よりお祈り申し上げます。又、神学校、聖書学校で教鞭をとって下さる牧師先生方の上に、主の祝福をお祈りします。

